



▲「げんき活動サポーター」として町職員も地図づくりに参加し、地域と一緒に考えて考える上豊内の元気と未来。

▼「地図づくり」実行委員長の村上邦夫さん。上豊内に多く残る貴重な史跡を多くの人に知ってもらうために奮闘。



コミュニケーションが はぐくむ地域の元気と 未来地図

コミュニケーションの場を作るきっかけとして地図作りに区として活動して、それを基に上豊内を盛り上げたいと思っています。地図と案内表示板ができれば、まずは、この『史跡お散歩マップ』を使ったウォークラリーを来年1月ごろに開催し、区民はもちろん、町内外の人に広く参加していただいて、上豊内の良いところをぜひ発見してほしいです」と語りました。

『地図づくり』実行委員長の村上邦夫さんは、「上豊内には、中世の史跡がたくさん残っていますが、普段目に付かない場所にあたりたりして気付かれないものもあります。石造りの樋門など今見ることで見えない歴史がたくさんあるので、それを見て回れるような史跡巡りルートを作って、地域の住民に懐かしんでもらったり、やな場で食事をした後に気軽に散策してもらって、



て、周辺にある貴重な史跡たちを見て知ってもらいたいです」と語りました。

●美しい風景と大切な歴史を描く
地図が地域の元気と未来への挑戦

同区の活動は、県などが進める「くまもと里モンプロジェクト」の助成金などを利用して取り組んでいます。同プロジェクトは、熊本が誇る「里の美しさ」を県民みんなで育て、新しい挑戦として発信していく事業に対して助成するものです。

また、町民と行政が協働のまちづくりを推進し、地域活性化を図る「こうさんもん元気活動推進事業」のモデル事業として、「げんき活動サポーター」の町職員が参加し、地域住民とともに活性化に取り組んでいます。